

# 第 21 回 日本免震構造協会賞 － 2020 －

一般社団法人 日本免震構造協会



# 第21回 日本免震構造協会賞 – 2020 –

第21回日本免震構造協会賞は、右の5件に決定した。

## 表彰制度の目的

免震構造等の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した個人、法人及び団体に対して表彰することにより、免震構造等の技術の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献していくことが本協会の表彰制度の目的である。

## 表彰の対象

功労賞は、多年にわたり免震構造等の適正な普及発展に功績が顕著な個人に、技術賞は、免震建築物等の設計・施工及びこれらに係る装置等に関する技術としての優れた成果を上げた個人、法人及び団体に、作品賞は、免震構造等の特質を反映した格別に優れた建築物等の実現に主たる貢献を行った個人、法人及び団体に、業績賞は、免震構造等の特質を反映した、建築物等の優れた設計、改修、保全、維持、復元、困難なプロジェクトの実現等において際立った業績をあげた個人、法人及び団体に、普及賞は、免震建築物・免震啓発活動・免震に係わる装置等により免震構造等の普及に貢献した個人、法人及び団体に贈る。

## 表 彰

2020年7月8日

一般社団法人日本免震構造協会通常総会後

## 一般社団法人日本免震構造協会表彰委員会委員

彦根 茂(委員長) 井田卓造 江副敏史  
下吹越武人 竹内 徹 畠中克弘 東野雅彦  
三田 彰

## 審査経過

本年度の応募は、技術賞3件、作品賞15件、業績賞3件および普及賞1件であった。審査前に、作品賞1件、業績賞1件が取り下げられた。第一回表彰委員会で応募内容について議論した結果、作品賞応募のうち1件を業績賞に相応しいと判断し応募者にエントリー変更の打診を行い了承された。よって、審査された件数は、技術賞3件、作品賞13件、業績賞3件および普及賞1件となった。

技術賞では応募3件のヒアリングを行い委員会での協議により、「巨大地震に対するフェールセーフ機構を有するアイソレータ『QTB』の開発」を選出した。LRBと高摩擦すべり機構を直列配置することにより、設計レベル以下の地震時にはLRB、巨大地震時にはフェールセーフ機構としてLRBを守るため、すべり支承が機能するものであり、開発後、応募者所属の社員寮に実用化された。今後の実績数増による最適化とコストダウンが期待される。

作品賞の応募は、建築用途別に、公共2件、企業8件、医療2件、個人住宅1件。基礎免震構造を採用したものが8件、中間層(1階柱頭を含む)免震構造を採用したものが2件、中間層と基礎免震構造を併用したものが2件、TMDならびに制振構造を採用したものが1件あった。いずれの作品も構造計画に工夫が見

## 選 考 結 果

第21回日本免震構造協会賞受賞は下記の5件である。

### I 技術賞

- 1) 巨大地震に対するフェールセーフ機構を有する  
アイソレータ「QTB」の開発  
株式会社竹中工務店 濱口弘樹 山本俊司  
オイレス工業株式会社 和氣知貴  
北海道大学 石井 建 菊地 優

### II 作品賞

- 1) 大塚製薬徳島美馬工場  
大塚製薬株式会社 仲井正広  
株式会社竹中工務店 佐々木淳一 吉本一規  
櫻川典男 串田淳哉
- 2) ー長崎県庁舎ー  
免震構造採用による安全で県民に開かれた  
低層シティーホールの実現  
長崎県 中村法道  
株式会社日建設 長瀬 悟 林 博之  
染谷朝幸  
鹿島建設株式会社 大須賀太一
- 3) JR 東日本 ホテルメッツ札幌  
株式会社 YRE マネジメント 高宮敏郎  
大成建設株式会社 藤山淳司 中藤泰昭  
島津幸二 山本佳城

### III 普及賞

- 1) 免震用積層ゴム支承に関する国際標準化  
(国際規格整備)  
一般社団法人日本ゴム工業会 青木正己  
東京大学・東京工業大学 西 敏夫  
株式会社ブリヂストン 鈴木重信  
オイレス工業株式会社 澤田 毅  
昭和電線ケーブルシステム株式会社 福田滋夫

(敬称略)

られ、建築として意匠、構造、設備、環境配慮等の統合的建築として優れた作品が多く見られた。書類審査による1次審査を行い通過した9作品について、2次審査の現地審査を行った。現地審査を経て、第2回表彰委員会で厳正に審査した。それぞれの作品の関係者をのぞく審査委員が審査を行い、評価得点数が過半を獲得した作品3件を選出した。中でも、壁構造と中空スラブによる極めて高い剛性と耐力を有する構造と基礎免震を採用した開放性の高いデザインの寒冷地における作品は、都市景観に寄与する上で高評価を得た。また、BCPに配慮した製薬工場は製造ラインの独立性を持たせ、柱頭免震と基礎免震構造を採用し傾斜地における複合免震構造とした作品も高評価であった。低層化と基礎免震構造の採用によって県民に開かれた公共施設を実現した作品は、立地上、地震後に起こりうる津波等の対策も講じてあり高評価を得た。

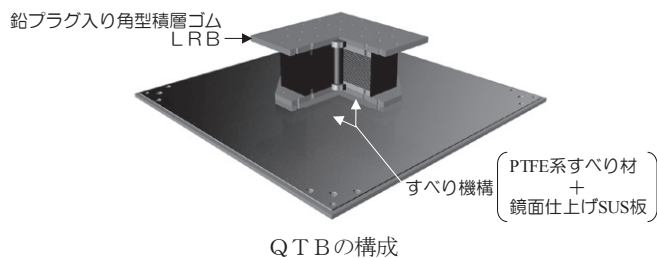
業績賞は、ヒアリングもしくは現地調査を行い、厳正に審査した結果、残念ながら該当する作品はなかった。

普及賞として選定した「免震用積層ゴム支承に関する国際標準化(国際企画整備)」は、日本の免震技術を国際的に広める上でも高く評価された。

(彦根 茂)

# 巨大地震に対するフェイルセーフ機構を有する アイソレータ「QTB」の開発

株式会社竹中工務店 濱口弘樹、山本俊司  
オイレス工業株式会社 和氣知貴  
北海道大学 石井 建、菊地 優



## 概要

近年、日本各地で巨大地震が頻発しており、近い将来には南海トラフ地震の発生も危惧されている。免震構造が非常に高い耐震安全性を有することは言うまでもないが、設計レベルを上回る巨大地震動を受けた場合はこの限りではない。上部建物の擁壁への衝突、免震部材の損傷、上部建物の過大応答などの極限事象が危惧される。これらの弱点を克服した免震構造システムを実現することができれば、巨大地震直後も建物機能を維持しなければならない病院、行政庁舎などの重要建物の耐震安全性をより一層高めることが可能となる。

今回開発した「QTB (Quake-Thru Bearing)」は、巨大地震時も損傷することなく上部建物への過大地震力の伝達を防止する高性能免震アイソレータである。十分に広い免震層水平クリアランスを確保することで、上記3つの極限事象を全て回避することが可能となる。本技術は神戸市の竹中工務店社員寮に初適用された。震災時には最高の安全性を備えた避難所として近隣住民に開放し、地域の復興に活用されることとなる。

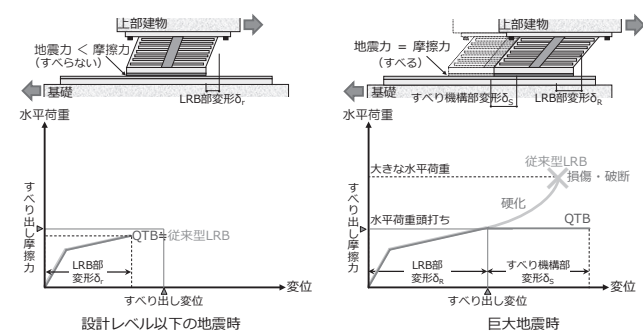
## 選評

南海トラフ等の巨大地震に対し免震構造をどのように設計するかは構造設計者にとって頭の痛い問題である。通常の告示レベル2(極稀)の地震入力に対しては、アイソレータのみの固有周期を4秒程度とし適切な量のダンパーを配すれば、概ね応答ベースシア係数を0.1~0.15、免震層の応答変形を30~40cm程度に抑えることができる。しかし同様の設計で南海トラフ等の巨大地震入力を検討した場合、免震層応答が過大となり、積層ゴム支承に座屈・ハードニング・せん断破断を生じたり、建物が免震ピット擁壁に衝突したりする等の危険性が生じることが多い。そこで同入力に対し短周期化、ダンパー容量増加により最大変形を抑え込むと、今度は免震効果が失われてしまう。本応募はこのような課題に対し真正面から取り組み、積層ゴム支承とすべり材を組合せて一定以上の応答変形に対しすべり材が滑動し、積層ゴム部のせん断変形やせん断力を抑制する技術を実用化したものである。開発の過程では12種以上のすべり材を比較して安定した動摩擦特性・耐候性を有する素材を抽出し、10年近く忍耐強く各種試験を積み重ねて実物件への適用にこぎ着けた努力は敬服に値する。(竹内 徹)

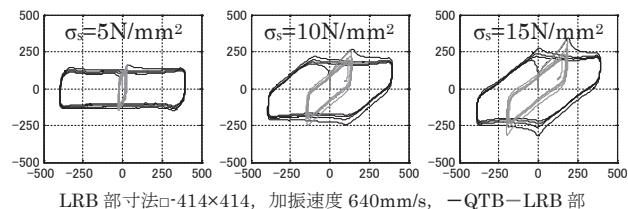
## システム及び特記事項

QTBは上下端部のいずれかをボルト接合、他端を摩擦接合するLRBとみなすことができる。摩擦接合が機能する限り、従来型LRBと変わらない性能を発揮する。入力レベル増大により摩擦が切れるとすべり機構部が撓動し、LRB部にはすべり摩擦力を上回るせん断力が作用しなくなる。このためLRB部は過度のハードニングやせん断破断を免れ、上部建物の応答せん断力は摩擦力を大きく上回ることがない。従って、QTBのみを用い、十分な水平クリアランスを有する免震層とすることで、擁壁の損傷、免震部材の損傷、上部建物の損傷の全てを回避可能な、フェイルセーフ機構を備える免震構造システムが実現する。

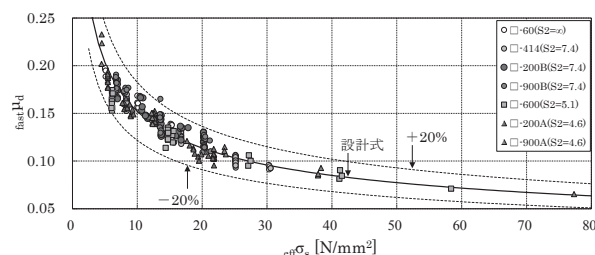
本技術の開発に当たっては、所期目標を達成可能なすべり材の選定と耐候性評価、多様な寸法形状の試験体の加振実験、設計用解析モデルの構築などを実施した。また、既往すべり支承の摩擦係数の評価に一般的に用いられる平均面圧に代わり、アイソレータの形状係数より推定する「実効面圧」を用いた摩擦係数の高精度評価手法を確立した。



QTBのしくみ



履歴特性



動摩擦係数の実効面圧依存性



建物外観（撮影：古川泰造）

## 建築概要

建設地：徳島県美馬市美馬町  
 建築主：大塚製薬株式会社  
 設計：株式会社竹中工務店  
 施工：株式会社竹中工務店  
 建築面積：6,447.86m<sup>2</sup> 延床面積：20,310.48m<sup>2</sup>  
 階数：地上6階、塔屋1階 高さ：28.5m  
 構造種別：鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造

## 選評

斜面地という立地をうまく生かして建築計画を練り上げた免震工場である。

大きなスペースが必要になる製造ラインを上階に配し、基礎免震と中間階柱頭免震を組み合わせた複合免震とすることで、斜面地の造成を抑制するとともに、搬出入用のトラックが免震エキスパンション・ジョイントをまたがない動線を実現した。

さらに、事業主の求めに応じて製造ラインを柔軟に改修できる計画を提案し、建築計画に落とし込んでいる点が秀逸である。個々の製造ラインの入れ替えを、ほかの製造ラインの稼働を止めることなく進められるように、人・モノの動線や設備ルートが製造ライン同士で交錯しないよう配置した。製造ラインのレイアウトの自由度を高めるのに、免震構造が一役買っている。

中間階柱頭免震では、低摩擦タイプの弾性すべり支承を採用したうえでそれを逆さ使いにするというユニークな工夫を加えて、柱の断面を小さくしてトラックバースの使い勝手を高めている。そうした細部にまで配慮が行き届いた免震建築となっている。（畠中 克弘）

建築主：大塚製薬株式会社 仲井正広  
 設計者：株式会社竹中工務店 佐々木淳一、吉本一規、櫻川典男  
 施工者：株式会社竹中工務店 串田淳哉

## 免震化した経緯及び企画設計等

本工場は、大地震時においても事業の継続性が求められる先端医薬品製造工場という用途から、免震構造を採用した。中央構造線断層帯地震や南海トラフ巨大地震を考慮した設計を行い、高い安全性を確保している。

## 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

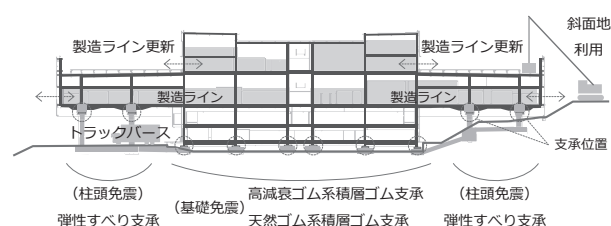
医薬品の世界的な市場変化に素早く対応するため、他の製造ラインを止めることなく4つの製造ラインの入替を独立して行える平面計画とした。製造ラインを空中に持ち上げ、斜面地という悪条件を逆手に取った合理的な断面計画を、複合免震構造（基礎免震＋中間階柱頭免震）の採用により実現した。

建物両翼の柱頭免震は弾性すべり支承（低摩擦タイプ）を採用し、高さ約7.5mの独立RC柱で支持した。すべり支承部の長期軸力を均一化できる支承・柱配置の工夫を行った上で、すべり支承を逆さ使いすることにより下部RC柱の負担応力を最小化した。必要最小限の柱断面と本数により、有効空間が広く搬出入しやすいトラックバースを実現した。

上部架構は純ラーメン構造として製造ラインの自由度を確保しつつ、生産室の大地震時の応答加速度を200cm/s<sup>2</sup>以下とする目標を実現している。



トラックバース（撮影：古川泰造）



製造ライン更新概要・免震材料配置概要

建築主：長崎県

設計者：株式会社日建設計

長瀬悟、林博之、染谷朝幸

施工者：鹿島建設株式会社

大須賀太一



建物外観（撮影：SS九州）

### 建築概要

建設地：長崎県長崎市尾上町 3-1

建築主：長崎県

設計：日建設計・松林・池田特定建設関連業務委託  
共同企業体

施工：鹿島・上滝・堀内特定建設工事共同企業体

建築面積：12,532m<sup>2</sup> 延床面積 53,416m<sup>2</sup>

階数：地上 8 階、地下なし

高さ：SGL+39.60m

構造種別：RC造

（一部プレストレストコンクリート造、木造）

### 選評

「県民とともに新しい時代を切り拓く庁舎づくり」を基本理念として、県の防災拠点施設にふさわしい災害に対する安全性確保と機能維持に加え、低く構えて風景と緑が立体的につながった、県民が親しみを感じる庁舎を目指して計画された。当初、高層とする長崎県の基本構想案に対して、徹底して低層化することで、周辺環境との調和が目指された。低層化したことで、水平方向に広い、県民に開かれた心地よい空間が実現された。特に剛強な構造体を現わしにした玄関ホールは、行政各部門を見渡すことが可能で、勾配の緩やかな大きな階段に自然と訪問者が促されている。

上部構造は RC 造の均等スパン純ラーメン架構を基本とし、一部の長スパン梁にはプレストレスを導入している。免震層から立ち上がる行政棟と議会棟との棟間には粘性ダンパーを配置して、両棟の重量差による地震時の応答の不均等を低減する配慮もされている。

通路側にたくさん配置された打ち合わせスペースは、夕方から夜間にかけて地域の子供たちに勉強スペースとして開放されて、いつもにぎわっている。免震としたことで可能となったこうした広々として開放感のある親しみやすい空間は、新しい県庁の在り方として高く評価された。

（三田 彰）

### 免震化した経緯及び企画設計等

「丘のような庁舎」、「県民に開かれたシティーホール」をコンセプトに、県の防災拠点施設に相応しい耐震性確保に加え、大きなワンプレート平面から成る使いやすい行政棟、大空間エントランス、別棟の議会棟を並列して整備する必要があった。これに対し「免震構造＋低層 RC 造」を採用し、均等スパンから成る純ラーメンの基本骨格に、一部でのプレストレス導入梁等を組み合わせて計画し、より免震効果を高めた安全でフレキシビリティを有する開放的な新しい県庁舎を合理的に実現した。

### 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

低層 RC 造の採用によって上部構造の剛性を効率よく確保し、等価固有周期 4 秒台の高性能免震構造とすることで防災拠点施設の耐震安全性を高め、災害時の機能継続が容易な建物としている。

均等スパンの RC 造ラーメン架構を基本として壁の配置箇所は限定し、大空間エリアにはプレストレス構造の長スパン梁を設け、使い易さとフレキシビリティの確保に加えて、高い床振動居住性や海浜部における構造体の耐久性にも配慮した。

その中で、仕上げによる過剰な装飾性を省いて敢えて剛強な構造体を現わしにし、安心感を与えつつ素材感をデザインとして積極的に活用している。

なお、免震層から立ち上がる行政棟と議会棟の棟間の要所に粘性ダンパーを配置し、地震時応答の不均等を低減した。更に、かつて埋立地であった敷地には地盤改良による液状化対策を施し、地震動の長周期成分の卓越を防ぐとともにインフラや護岸の過大な損傷も回避し、安心安全が確保され長くご活用頂ける県民に開かれた新県庁舎を実現できた。



シティーホール内観（撮影：SS九州）



建物外観（提供：大成建設（株））

## 建築概要

建設地：札幌市北区北 7 条西 2 丁目  
 建築主：株式会社 YRE マネジメント  
 設計：大成建設株式会社一級建築士事務所  
 施工：大成建設株式会社札幌支店  
 建築面積：606m<sup>2</sup> 延床面積：6,175m<sup>2</sup>  
 階数：地上 13 階、地下一階 高さ：43.6 m  
 構造種別：RC 造

## 選評

柱・梁型のない部屋を設計したいという願望は建築家なら誰もが抱く永遠のテーマであろう。なぜ建築家は柱・梁型を嫌うのか考えてみると、コンパクトな部屋では人間の振る舞いを基にした身体的な寸法体系とは別の論理で現れる架構スケールと折り合いをつけるのが難しく、概して柱梁は邪魔物扱いされる。しかも、高層建物で柱・梁型を排除するのは非常に難しい。それを本作品は基礎免震を採用することで、壁と床による明快な構造体を用いて実現した。免震構造の採用は安全な都市づくりへの意識が高いクライアントの要望であり、正確には免震構造の特性を活かして成立させた架構デザインという説明の方が適切であり、まさしく本作品賞にふさわしいプロジェクトである。

スレンダーな構造体はそのままインテリアに現れ、透明感溢れる軽快なファサードにも反映されている。コーナーを開放的にするために 300 φ の Pca 超高強度細柱の採用や、細やかに積雪対策を施した端正なディテールなど隅々まで設計者のこだわりが貫かれている。この構造形式は汎用性が高いことや事務所や住宅など将来的な用途転用も見据えて計画しているという説明にも説得力があった。審査員全員から高い評価を得て受賞に至った作品である。（下吹越武人）

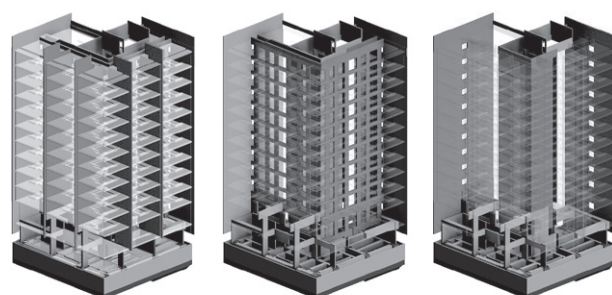
建築主：株式会社 YRE マネジメント 高宮敏郎  
 設計者：大成建設株式会社 中藤泰昭、藤山淳司  
 施工者：大成建設株式会社 島津幸二  
 材料開発者：大成建設株式会社 山本佳城

## 免震・制振化した経緯及び企画設計等

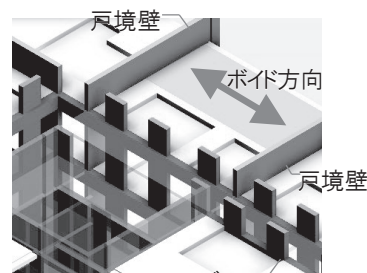
剛な上部構造と柔らかい免震構造の組み合わせは、上部構造の揺れを最小限に抑えることができる最も理想的な構造システムの一つである。建築計画上必要となる間仕切り壁や外壁を壁柱構造として有効に利用することで極めて剛性の高い上部構造とし、L2 地震時に層間変形角を 1/1000 以下、応答加速度を 100gal 程度に抑える計画とした。

## 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

基準階の客室レイアウトに合わせて井桁状に壁柱を配置し、客室内に柱型梁型の出ないプランを実現した。壁柱は①客室間の戸境壁、②客室と廊下の境界を利用したフィレンディール架構、③コアを利用したコア壁、④妻面の外壁からなり、機能と構造の融合により豊富な壁量確保した。また、客室エリアについては戸境壁（スパン 9m）と客室廊下間の境界壁で支持される 3 辺固定スラブ（300mm 厚の中空スラブ）によって外周に梁型の無い開放性の高い空間とし、建物コーナー部には 300N 級の超高強度コンによる細柱（φ 300mm）を採用し、浮遊感のあるファサードとした。以上の工夫により、フラットな構造体そのままファサード・インテリアとなる、開放性の高い新しいホテルデザインを実現した。



①戸境 ②フィレンディール架 ③コア壁、④妻壁  
壁柱構造パース



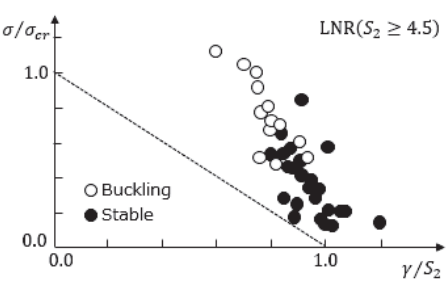
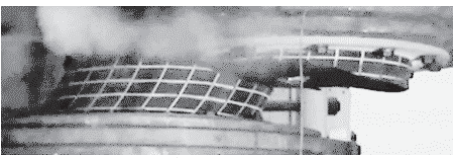
客室の 3 辺固定スラブ

# 免震用積層ゴム支承に関する国際標準化 (国際規格整備)

一般社団法人日本ゴム工業会：青木正己  
 東京大学・東京工業大学：西 敏夫  
 株式会社ブリヂストン：鈴木重信  
 オイレス工業株式会社：澤田 毅  
 昭和電線ケーブルシステム株式会社：福田滋夫

## 選評

ISO はスイスのジュネーブに本部を置く非政府機関 International Organization for Standardization (国際標準化機構) である。ここで制定された規格 (ISO 規格) はヨーロッパを中心とした技術規格であるが、世界的に最も参照されているものである。申請者はゴム工業会、学術関係者、建設関係者、及びメーカー各社をリードし、免震用積層ゴムの仕様、試験方法、及び高耐久性能について規格案をまとめた。引き続き ISO に働きかけ、上記技術規格案を 2005 年に ISO22762 として発行にこぎつけた。日本は免震構造の技術レベルとその普及で世界をリードしている。本活動は我が国の免震構造技術の世界的な展開と、健全な普及に大きく貢献するものである。更に、この内容とほぼ同じものを日本においても JIS 化する活動を推進し、2011 年に JIS K 6410 として発行にこぎつけ、日本における免震構造の更なる普及発展を加速するのに貢献した。以上の功績により本活動を本年度の免震構造協会賞普及賞に選定した。(東野雅彦)

| 年                 | ISO開発                                                                                                                                                                                 | JIS開発                                                                                                                               |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2000              | ISO/TC45国内審議委員会に「免震ゴム・ゴム支承分科会」設置<br>橋梁・建築用免震用積層ゴム支承のISO規格作成活動開始<br><br>2000年ISO国際会議で日本より規格案提出<br>ISOのテーマとして正式登録・日本が議長国に決定                                                             |  <p>積層ゴム支承の限界性能調査</p>                            |
| 2001<br>～<br>2004 | 6回の国際会議における検討・審議<br>日本・アメリカ・イギリス・中国を中心とした課題対応<br>規格開発のための試験 (長期耐久性・限界性能) の実施                                                                                                          |                                                                                                                                     |
| 2005              | ISO 22762 Elastomeric seismic-protection isolators 制定<br>Part-1: Test methods<br>Part-2: Application for bridges - Specification<br>Part-3: Application for buildings - Specification |                                                                                                                                     |
| 2010<br>～<br>2011 | ISO 22762 改正 (2 <sup>nd</sup> version)                                                                                                                                                |                                                                                                                                     |
| 2014              | ISO 22762 にガイダンス追加<br>Part 4: Guidance on the application of ISO 22762-3                                                                                                              | 「免震ゴム・ゴム支承分科会」において<br>免震用積層ゴム支承のJIS化を狙った作業開始<br>経済産業省・国土交通省・日本建築学会・JSSI他<br>産官学連携して検討開始                                             |
| 2015              |                                                                                                                                                                                       | JIS K 6410 建築免震用積層ゴム支承 制定・公示<br>第1部：仕様<br>第2部：試験方法                                                                                  |
| 2017              | ISO 22762 に弾性すべり支承追加作業開始<br>Part-5: Sliding seismic-protection isolators for buildings                                                                                                | JIS K 6410 改正<br><br><br>世界各国の積層ゴム支承φ800mmの破断実験 |
| 2018              | ISO 22762 改正 (3 <sup>rd</sup> version)                                                                                                                                                | JIS K 6410 に高機能JIS追加<br>第3部：高耐久・高性能の仕様及び試験法<br>(性能・品質の違いを見える化)                                                                      |
| 2019              | ISO 22762 に高機能JISを反映した規格追加作業開始<br>Part 6: High durability and High-performance<br>Specifications and Test Methods                                                                     | ISOに提案                                                                                                                              |

(一社) 日本ゴム工業会 ISO/TC45 国内審議委員会「免震ゴム・ゴム支承分科会」における規格開発活動概要

## 第22回（2021年）日本免震構造協会賞募集

一般社団法人日本免震構造協会表彰規程に従って、下記のとおり第22回（2021年）日本免震構造協会賞を募集します。会員及び一般の方々の積極的な応募と推薦をお待ちしております。なお、作品賞、業績賞は、2020年7月末日以前に竣工した建築物で、審査のための内部視察が可能な建築物を対象といたします。

●応募締切日 応募申込 2020年8月7日  
(メール又はFAX可)

書類提出 2020年8月31日

●表彰式 2021年6月  
一般社団法人日本免震構造協会通常総会後

●一般社団法人日本免震構造協会表彰委員会

委員長 彦根 茂

委員 井田卓造 江副敏史 下吹越武人

竹内 徹 畠中克弘 東野雅彦

三田 彰

### 一般社団法人日本免震構造協会表彰規程

平成12年6月15日制定

#### (目的)

**第1条** この規程は、一般社団法人日本免震構造協会（以下「協会」という。）の表彰について必要な事項を定め、免震構造等〔建築物等に係る免震構造・制振構造等の応答制御構造（以下「免震構造等」という。）〕の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した個人、法人及び団体に対して表彰することを目的とする。

#### (表彰の種類)

**第2条** 表彰は、功労賞、技術賞、作品賞、業績賞及び普及賞の5種類に分けて行う。

#### (表彰の対象)

**第3条** 功労賞は、多年にわたり免震構造等の適正な普及発展に功績が顕著な個人に贈る。

2 技術賞は、免震建築物等の設計、施工及びこれらに係る装置等に関する技術としての優れた成果を上げた個人、法人及び団体に贈る。

3 作品賞は、免震構造等の特質を反映した、格別に優れた建築物等の実現に主たる貢献を行った個人、法人及び団体に贈る。但し、作品の新築、改修等は問わない。

4 業績賞は、免震構造等の特質を反映した、建築物等の優れた設計、改修、保全、維持、復元、困難なプロジェクトの実現等において際立った業績をあげた個人、法人及び団体に贈る。

5 普及賞は、免震建築物・免震啓発活動・免震に係わる装置等により免震構造等の普及に貢献した個人、法人及び団体に贈る。

#### (表彰)

**第4条** 功労賞、技術賞、作品賞、業績賞及び普及賞には表彰状と副賞を贈る。

2 表彰の時期は、原則として、協会の通常総会時とする。

#### (応募の方法)

**第5条** 協会会長（以下「会長」という。）は、毎年日本免震構造協会賞応募要領を定め、候補者を募集

する。

2 応募は、自薦又は他薦のいずれでも良い。

#### (表彰委員会)

**第6条** 日本免震構造協会賞の審査は、表彰委員会（以下「委員会」という。）が行う。

2 委員長及び委員は、理事会の同意を経て、会長が委嘱する。

3 委員会には、委員長の指名により副委員長1名を置くことがある。副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故ある時は、その職務を代行する。

4 委員会は、委員長及び副委員長を含め、8名以内で構成する。

5 委員の任期は1期2年とし、原則として連続2期までとする。

6 委員長は、必要に応じ専門委員あるいは専門委員会を置くことができる。

7 委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

#### (受賞者の決定)

**第7条** 各受賞者を、委員会が選考し、会長が決定する。

#### (規程の改廃)

**第8条** この規程の改廃は、理事会の議決による。

#### (細則)

**第9条** この規程を実施するために必要な事項については、別に定める。

#### 附則（最終改正）

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

応募申込先及び応募に関する問合せ先

一般社団法人日本免震構造協会・事務局

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18

JIA 館2階

TEL 03-5775-5432 FAX 03-5775-5434

E-MAIL hyosho@jssi.or.jp

# 日本免震構造協会表彰実績（第1回～第20回）

## 1. 第1回＜2000年6月＞ 2件

### 功労賞

東京電機大学名誉教授 中野清司  
（建設省建築研究所長、日本免震構造協会会長などを歴任し、免震構造の普及発展、日本免震構造協会の発展に尽力）

### 功労賞

大日本土木株式会社 技術研究所副所長 跡部義久  
（免震構造の普及発展、日本免震構造協会の設立に尽力）

## 2. 第2回＜2001年6月＞ 5件

### 技術賞

- 1) 周期三秒前後の建物免震に関する一連の研究  
株式会社大林組 沼本要七、橋本康則、寺村 彰、  
奥田幸男  
株式会社ブリヂストン 芳澤利和
- 2) 超高層免震  
大成建設株式会社 川端一三、小室 努、木村雄一、  
高木政美  
昭和電線電纜株式会社 村松佳孝

### 作品賞

- 1) 稲城市立病院  
稲城市長 石川良一  
株式会社共同建築設計事務所 川島浩孝  
株式会社東京建築研究所 中澤俊幸  
株式会社設備工学研究所 矢萩栄一
- 2) 第一生命府中ビルディング  
株式会社日本設計 中川 進、長堀嘉一
- 3) NSW山梨ITセンター  
日本システムウエア株式会社 多田修人  
株式会社白江建築研究所 白江龍三  
株式会社ダイナミックデザイン 宮崎光生

## 3. 第3回＜2002年6月＞ 5件

### 技術賞

- 1) レトロフィット免震に関する一連の研究  
大成建設株式会社 小山 実、鈴木裕美、佐藤啓治、  
杉崎良一
- 2) （特別賞）免震住宅の普及化への取り組み  
株式会社一条住宅研究所 高橋武宏、吉井邦章  
株式会社一条工務店 深堀美英、平野 茂、岡村光裕

### 作品賞

- 1) 興亜火災神戸センター  
株式会社竹中工務店 福山國夫、上田博之、池田英美、  
鍋谷めぐみ、植田光治
- 2) 角川書店新本社ビル  
株式会社角川書店 角川歴彦  
株式会社大林組 浦 進悟、中村雅友、鶴田信夫、  
堀 長生
- 3) （特別賞）沢の鶴資料館  
沢の鶴株式会社 西村隆治  
株式会社黒田建築設計事務所 岩井英治  
株式会社大林組 寺村 彰、藤川喬雄、田中耕太郎

## 4. 第4回＜2003年6月＞ 6件

### 技術賞

- 1) 非同調マスダンパー効果を持つ中間層免震構造の設計法の開発

株式会社日建設計 村上勝英、木原碩美、小崎 均  
東京理科大学 北村春幸

- 2) 風による免震部材挙動と免震建物風応答評価法  
鹿島建設株式会社 竹中康雄、鈴木雅靖、飯塚真巨、  
吉川和秀

株式会社ブリヂストン 鈴木重信

- 3) （特別賞）慶應義塾大学理工学部 創想館  
慶應義塾大学 吉田和夫  
トキコ株式会社 呉服義博  
株式会社大林組 落合正明、橋本康則

### 作品賞

- 1) 山口県立きららスポーツ交流公園多目的ドーム（きらら元気ドーム）  
山口県 町田明德  
株式会社日本設計 人見泰義、千鳥義典
- 2) 慶應義塾大学 日吉 来往舎  
慶應義塾 安西祐一郎  
清水建設株式会社 北村佳久、中川健太郎、吉田郁夫、  
加藤喜久
- 3) （特別賞）SBSスタジオ棟  
静岡放送株式会社 松井 純  
大成建設株式会社 田中 勉、勝田庄二、平尾明星、  
安井正憲

## 5. 第5回＜2004年6月＞ 7件

### 技術賞

- 1) 建物上部に大型タワーを搭載する免震建物に関する一連の取り組み  
株式会社エヌ・ティ・ティファシリティーズ  
中野時衛、斉藤賢二、土肥 博、鈴木幹夫、余湖兼右
- 2) （普及賞）村上市庁舎免震改修工事  
村上市 佐藤 順、片野 清  
鹿島建設株式会社 浅井 豊、石渡孝志、宮崎正敏

### 作品賞

- 1) 兵庫県立美術館  
兵庫県 岸本勝也  
安藤忠雄建築研究所 安藤忠雄  
木村俊彦構造設計事務所 木村俊彦  
金箱構造設計事務所 金箱温春  
株式会社大林組 小林英博
- 2) プラダ ブティック青山店  
プラダジャパン株式会社 Davide Sesia  
株式会社竹中工務店 小塚裕一、中井政義、  
大畑勝人、岡崎俊樹
- 3) セ・パルレ中央林間  
株式会社日建ハウジングシステム 上河内宏文、  
横山雄二
- 4) ポーラ美術館  
株式会社ポーラ化粧品本舗 井上定利  
株式会社日建設計 浅野美次、山本 裕、石田大三  
株式会社竹中工務店 黒崎信之
- 5) （特別賞）大阪市中央公会堂保存・再生  
大阪市  
大阪市住宅局営繕部  
株式会社坂倉建築研究所 太田隆信  
株式会社平田建築構造研究所 西村清志  
株式会社東京建築研究所 山口昭一  
清水建設株式会社 保地洋志

6. 第6回<2005年6月> 5件

技術賞

- 1) 履歴減衰型免震部材の統一的反元力モデルの開発  
北海道大学 菊地 優、山本祥江  
清水建設株式会社 北村佳久、猿田正明、  
田村和夫
- 2) フリープラン・長寿命・高耐久を実現した日本初の超  
高層 PCaPC 免震建物  
鹿島建設株式会社 上野 薫、堀内一文、  
丸山 東、荒木修治  
小田急建設株式会社 武菱邦夫

作品賞

- 1) マブチモーター本社棟  
マブチモーター株式会社 亀井慎二  
日本アイ・ビー・エム株式会社 関 幸治  
株式会社日本設計 三町直志、大坪 泰  
清水建設株式会社 早川 修
- 2) 清水建設技術研究所新本館  
清水建設株式会社 矢代嘉郎、並木康悦、  
神作和生、斎藤利昭、  
折原信吾
- 3) 九州国立博物館  
株式会社菊竹清訓建築設計事務所 松里征男  
株式会社久米設計 千馬一哉、油田憲二  
鹿島建設株式会社 大野隆久  
大成建設株式会社 加藤幸信

7. 第7回<2006年6月> 6件

功労賞

- 1) 株式会社東京建築研究所 山口昭一

技術賞

- (特別賞) パーシャルフロート免震構造の開発
- 1) 清水建設株式会社 大山 巧、猿田正明、  
田崎雅晴、堀 富博、  
土屋宏明

作品賞

- 1) 慶應義塾大学(三田)南館  
慶應義塾大学 吉田和夫  
大成建設株式会社 芝山哲也、篠崎洋三、  
長島一郎  
株式会社日立製作所 讃井洋一
- 2) 信濃毎日新聞社本社ビル  
信濃毎日新聞株式会社 小坂健介  
株式会社日建設計 常木康弘、長瀬 悟、  
中西規夫  
鹿島建設株式会社 金丸康男
- 3) ホテル エミオン 東京ベイ  
スターツ CAM 株式会社 佐口竜也  
株式会社日本設計 小林利和、浅野一行  
前田建設工業株式会社 川述正和
- 4) (特別賞) 国際医療福祉大学附属熱海病院  
株式会社医療福祉建築機構 佐々木邦彦  
株式会社大林組 橋本康則、奥田 寛、  
甲賀一也、田畑博章

8. 第8回<2007年6月> 4件

技術賞

- 1) 柱脚周りに限定された補強機構を用いた中間層免震レ  
トロフィット

株式会社日建設計

向野聡彦、小野潤一郎、  
木村征也

作品賞

- 1) 国立新美術館  
株式会社黒川紀章建築都市設計事務所 黒川紀章  
株式会社日本設計 人見泰義、中村 伸  
鹿島建設株式会社 大野平雄  
清水建設株式会社 田中純一
- 2) 東京建設コンサルタント新本社ビル  
株式会社東京建設コンサルタント 岸 輝親  
株式会社松田平田設計 藤森 智  
清水建設株式会社 竹内雅彦、斎藤利昭、  
野口高行
- 3) 味の素グループ高輪研修センター  
味の素株式会社 坂倉一郎  
株式会社久米設計 嵐山正樹、依田博基、  
渡瀬利則  
大成建設株式会社 平田尚久

9. 第9回<2008年5月> 7件

技術賞

- 1) 灯台レンズ用免震装置  
株式会社奥村組 川井伸泰、舟山勇司、  
安井健治
- 2) (特別賞) ゲージ振り子の原理に基づく新しい転がり  
型免震装置の開発  
東京大学 川口健一、大矢俊治  
岡部株式会社 阿部啓一、阿部純一郎、  
田口朝康

作品賞

- 1) ソニーシティ  
ソニー生命保険株式会社 於久田太郎  
株式会社プランテック総合計画事務所 大江 匡  
オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 柴田育秀  
株式会社アルファ構造デザイン事務所 海野敏夫  
清水建設株式会社 水田保雄
- 2) 多摩美術大学図書館(八王子キャンパス)  
学校法人多摩美術大学 田淵 諭  
株式会社伊東豊雄建築設計事務所 伊東豊雄  
株式会社佐々木睦朗構造計画研究所 佐々木睦朗  
鹿島建設株式会社 青木幹雄、山口圭介
- 3) 日産先進技術開発センター 事務棟  
日産自動車株式会社 若狭保夫  
株式会社日本設計 大坪 泰、人見泰義、  
西川大介  
清水建設株式会社 加藤喜久
- 4) (特別賞) 武蔵野市防災・安全センター  
武蔵野市長 邑上守正  
株式会社日建設計 寺田隆一、長瀬 悟、  
中谷 聡  
大成建設株式会社 久保田清
- 5) (特別賞) セラミックパーク MINO  
株式会社川口衛構造設計事務所 川口 衛、阿藤有士  
永田構造設計事務所 永田秀正  
株式会社磯崎新アトリエ 青木 宏  
東急建設株式会社 服部宏己

10. 第10回<2009年6月> 7件

技術賞

- 1) 日本大学理工学部駿河台校舎5号館の免震レトロフィット  
学校法人日本大学 石丸辰治  
清水建設株式会社 湯山康樹、広瀬景一、  
山岸俊之、横藤田弘
- 2) (特別賞) 高い座屈安定性を有する積層ゴム支承の力学挙動解明と実用化  
東京都市大学 研究開発チーム 西村 功、杉野 潔、  
安田 隆、佐々木頼孝、  
中村 貴

作品賞

- 1) シスメックステクノパークR&Dタワー  
株式会社竹中工務店 西崎隆氏、村上陸太、  
熊野豪人、芹澤好徳、  
石原 哲
- 2) 代々木ゼミナール本母校 代ゼミタワー  
学校法人高宮学園 高宮行男  
大成建設株式会社 奥石秀人、藤山淳司、  
欄木龍大、岩田 丈
- 3) 木津川市庁舎  
木津川市市長 河井規子  
株式会社日建設計 多賀謙蔵、田代靖彦、  
小松慎二  
三井住友建設株式会社 永野輝和
- 4) 慶應義塾日吉キャンパス 協生館  
学校法人慶應義塾 清家 篤  
株式会社環境デザイン研究所 仙田 満  
株式会社三菱地所設計 新居 仁、塚谷秀範  
金箱構造設計事務所 金箱温春
- 5) (啓発普及功績賞) 奥村記念館  
株式会社奥村組 木村修治、篠原 努、  
服部晃三、得田健一、  
中屋成人

11. 第11回<2010年6月> 6件

技術賞

- 1) 三越本店本館バリアフリー工事  
～「都市型免震レトロフィット」～の実現  
株式会社三越 石塚邦雄  
株式会社横河建築設計事務所 西村嗣久、古宮謙二  
清水建設株式会社 武藤 光、村井義則
- 2) 既存超高層建築の長周期・長時間地震動対策の技術開発とその実施  
大成建設株式会社 細澤 治  
明治安田生命保険相互会社 松尾憲治  
大成建設株式会社 木村雄一、須田健二、  
吉村智昭
- 3) エネルギー吸収効率を最大化するON／OFF制御型オイルダンパの開発と実用化  
鹿島建設株式会社 栗野治彦、山田俊一、  
田上 淳、清水 幹、  
松永義憲
- 4) (特別賞) 超高層免震建物用大型免震支承部材の実大性能試験の実施  
株式会社竹中工務店 嶺脇重雄、山本雅史、  
東野雅彦、濱口弘樹  
東京工業大学 和田 章

作品賞

- 1) ろうきん肥後橋ビル  
近畿労働金庫 永田憲一  
株式会社日建設計 多賀謙蔵、嘉村武浩、  
加登美喜子  
株式会社銭高組 下土井節男
- 2) 株式会社前川製作所新本社ビル  
大成建設株式会社 小林治男  
株式会社前川設計一級建築士事務所 松本敏勝  
大成建設株式会社 渡辺岳彦、田中 勉、  
船原英樹

12. 第12回<2011年6月> 13件

功労賞

- 1) 須賀川勝
- 2) 中山光男

技術賞

- 1) (奨励賞) 二重構造による連結制振構造「デュアル・フレームシステム」の超高層RC造建物への展開  
株式会社大林組 西村勝尚、大住和正、  
福本義之、和田裕介

作品賞

- 1) 大林組技術研究所新本館(スーパーアクティブ制震構造)  
株式会社大林組 勝俣英雄、石川郁男、  
山中昌之、蔭山 満、  
遠藤文明
- 2) 三菱一号館  
三菱地所株式会社 村田 修  
株式会社三菱地所設計 岩井光男、山極裕史、  
小川一郎、野村和宣
- 3) 富士ゼロックスR&Dスクエア  
富士ゼロックス株式会社 丸山巖浩  
清水建設株式会社 山田祥裕、中川健太郎、  
諸星雅彦、藍原弘司

普及賞

- 杉沢 充、小幡 学、三浦義勝、鈴木哲夫、鳥居次夫、  
小山 実、猿田正明、

13. 第13回<2012年6月> 5件

特別賞

- 1) 石巻赤十字病院  
石巻赤十字病院 金田 巖  
株式会社日建設計 木原碩美、染谷朝幸  
鹿島建設株式会社 室井 博、鈴木祐二

技術賞

- 1) (特別賞) 阿佐ヶ谷「知粋館」  
株式会社構造計画研究所 高橋 治、富澤徹弥  
清水建設株式会社 須原淳二、黒澤 到  
カヤバシステムマシナリー株式会社 露木保男

作品賞

- 1) ソニー株式会社 ソニーシティ大崎  
ソニー株式会社 齋藤賢吾  
株式会社日建設計 山梨知彦、向野聡彦  
鹿島建設株式会社 桐生雅文  
カヤバシステムマシナリー株式会社 露木保男
- 2) オリックス本町ビル  
株式会社竹中工務店 片山丈士、島野幸弘、  
澤井祥晃、西尾和哉、  
有田 博

- 3) (特別賞) サウスゲートビルディング  
西日本旅客鉄道株式会社 尼崎 隆  
ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社  
越野栄悦  
株式会社安井建築設計事務所 保田秀樹、松本孝弘、  
秋田 智

14. 第14回<2013年6月> 9件

技術賞

- 1) 繰返し大変形下の積層ゴム力学特性変化と地震応答評価法に関する一連の研究  
鹿島建設株式会社 竹中康雄、近藤明洋、  
高岡栄治、引田真規子  
東京理科大学 北村春幸

作品賞

- 1) ホテル近鉄京都駅  
株式会社近鉄ホテルシステムズ 中山 勉  
株式会社日建設計 吉澤幹夫、白沢吉衛、  
仁科誠治  
株式会社奥村組 野末 潔  
2) 溶接会館  
社団法人日本溶接協会 宮田隆司  
鹿島建設株式会社 前田祥三、阿部太郎、  
村松匡太、長井 勉  
3) シティホールプラザ「アオーレ長岡」  
長岡市 森 民夫  
隈研吾建築都市設計事務所 隈 研吾  
江尻建築構造設計事務所 江尻憲泰  
大成・福田・中越・池田共同企業体 松井幸夫

普及賞

- 1) チュリス西麻布耐震改修工事  
2) 石燈籠の免震改修ー靖国神社大燈籠ー  
3) 高崎市総合保健センター 高崎市立中央図書館  
4) 地下空洞直上に建つ市庁舎の免震レトロフィット  
5) ヨーロッパハウス

15. 第15回<2014年6月> 8件

功労賞

- 1) 寺本隆幸

技術賞

- 1) 東北地方太平洋沖地震を経験した免震U型ダンパーの  
残存疲労性能の調査及び残存疲労性評価法の確立  
新日鉄住金エンジニアリング株式会社  
小西克尚、川村典久  
株式会社日建設計 村上勝英、染谷朝幸  
東京工業大学 山田 哲  
2) 「岐阜市民病院」免震・制振技術を活用した  
特殊工法による病院の改築  
株式会社山下設計 早野裕次郎、立川 淳、  
朝倉純一、沢崎詠二

作品賞

- 1) 東京駅丸の内駅舎保存・復原  
東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所  
鎌田雅巳、金森勇樹  
株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所  
田原幸夫  
株式会社東京建築研究所 蓮田常雄  
鹿島建設株式会社 金丸康男

- 2) 清水建設本社  
清水建設株式会社 小川哲也、竹内雅彦、中川健太郎、  
島崎 大、金子裕介

3) 中之島フェスティバルタワー

- 株式会社朝日新聞社 曾根宏司  
株式会社日建設計 吉田 聡、岡田 健  
近畿大学 阿波野昌幸  
株式会社竹中工務店 山本啓介

普及賞

- 1) 木造建物の免震レトロフィット  
ー製粉ミュージアム本館ー  
2) 御茶ノ水ソラシティ

16. 第16回<2015年6月> 7件

技術賞

- 1) 変形を制限した鋼製弾塑性ダンパーによる鉄骨梁の損傷低減工法の開発  
鹿島建設株式会社 黒川泰嗣、瀧 正哉  
澤本佳和、岡安隆史  
株式会社小堀鐸二研究所 鈴木芳隆  
2) パッシブ切替型オイルダンパーの実用化と都市型小変位免震建物の実現  
大成建設株式会社 水谷太朗、欄木龍大  
長島一郎、青野英志  
カヤバシステムマシナリー株式会社  
露木保男

作品賞

- 1) キューピー株式会社 仙川キューポート  
キューピー株式会社 長谷部敏朗  
株式会社日建設計 小坂橋裕一、柳原雅直  
大成建設株式会社 喜田浩司  
2) 岸本ビル  
株式会社竹中工務店 岡田光博、森下泰成  
須賀定邦、林 茂史  
阿倍野センタービル株式会社 大橋千恵子  
3) ガーデニール砧 WEST  
清水建設株式会社 高橋 啓、井川博英  
小嶋一輝、鷲見晴彦  
大作和己  
4) Ribbon Chapel  
NAP 建築設計事務所 中村拓志  
Arup 柴田育秀、伊藤潤一郎  
ピーエス三菱 檜垣 清

普及賞

- 1) 減災館における学習・体感・研究を通じた免震技術の普及・啓発

17. 第17回<2016年6月> 8件

功労賞

- 1) 西川孝夫

技術賞

- 1) 既存超高層建物に適用可能な大地震対応超大型 TMD の開発  
鹿島建設株式会社 栗野治彦、黒川泰嗣  
瀧 正哉、狩野直樹  
中井 武  
2) 巨大地震に対応する接続型スイッチダンパーの開発  
株式会社安井建築設計事務所 安田拓矢  
カヤバシステムマシナリー株式会社 露木保男

|                                                                        |                                               |
|------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| THK 株式会社<br>半田市役所<br>名古屋大学                                             | 村尾秀己<br>青木賢治<br>福和伸夫                          |
| 作品賞                                                                    |                                               |
| 1) 大阪駅大屋根<br>西日本旅客鉄道株式会社<br>株式会社大林組                                    | 前田 満、尼崎 隆<br>西村勝尚、新居 努<br>北山宏貴                |
| 2) 日本橋ダイヤビルディング<br>株式会社竹中工務店                                           | 浜田勇氣、星野正宏                                     |
| 3) 静岡県草薙総合運動場体育館<br>静岡県知事<br>内藤廣建築設計事務所<br>鹿島建物総合管理株式会社<br>KAP         | このはなアリーナ<br>川勝平太<br>内藤 廣<br>箕浦達也<br>岡村 仁、桐野康則 |
| 4) 品川シーズンテラス<br>大成建設株式会社<br>株式会社 NTT ファシリティーズ                          | 大畑克三、岩井昭夫<br>牛垣和正<br>松本泰樹、中川明徳                |
| 普及賞                                                                    |                                               |
| 1) 通天閣における既存鉄塔建造物の免震改修工事の実施                                            |                                               |
| 18. 第 18 回< 2017 年 6 月> 7 件                                            |                                               |
| 技術賞                                                                    |                                               |
| 1) 皿ばねとブレーキ技術を用いた高性能摩擦ダンパー<br>「ブレーキダンパー」の開発<br>株式会社大林組                 | 佐野剛志、鈴木康正<br>野村 潤、内海良和<br>後閑章吉                |
| 2) 水平 2 方向外力を受ける免震構造用 U 字形鋼材ダン<br>パーの損傷評価法<br>東京工業大学                   | 山田 哲、吉敷祥一<br>ENE Diana                        |
| 東京理科大学<br>新日鉄住金エンジニアリング株式会社                                            | 焦 瑜<br>小西克尚                                   |
| 作品賞                                                                    |                                               |
| 1) 鉄鋼ビルディング<br>株式会社鉄鋼ビルディング<br>株式会社三菱地所設計                              | 増岡祥文<br>溜 正俊、吉原 正<br>宮下正人<br>坂本雅之             |
| 2) 笹川平和財団ビル<br>公益財団法人笹川平和財団<br>株式会社松田平田設計                              | 羽生次郎<br>菊地岳史、藤田啓史<br>牧野健二<br>伊藤清仁             |
| 3) G.Itoya (銀座・伊東屋) ロバスト性を有する 1 スパ<br>ン高層制振建物<br>株式会社伊東屋<br>大成建設株式会社   | 伊藤 明<br>川口 恵、柴田宣伸<br>藤永直樹、高島 洋                |
| 4) 市立吹田サッカースタジアム<br>スタジアム建設募金団体<br>株式会社竹中工務店                           | 本間智美<br>奥出久人、大野正人<br>野澤裕和、大平滋彦                |
| 普及賞                                                                    |                                               |
| 1) 竣工後 30 年を経過した免震建物に設置された積層ゴ<br>ムの経年変化<br>株式会社奥村組<br>昭和電線ケーブルシステム株式会社 |                                               |

|                                                                                                             |                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 19. 第 19 回< 2018 年 6 月>                                                                                     |                                      |
| 技術賞                                                                                                         |                                      |
| 1) エネルギー回生を導入した高効率制震オイルダンパの開<br>発と実用化<br>鹿島建設株式会社                                                           | 栗野治彦 福田隆介<br>田上 淳<br>銭 志偉            |
| センクシア株式会社                                                                                                   |                                      |
| 作品賞                                                                                                         |                                      |
| 1) 小学館ビル<br>小学館不動産株式会社<br>株式会社日建設計                                                                          | 坂本憲治<br>向野聡彦 郡 幸雄<br>早田友彦<br>増田孝弘    |
| 2) 高知県自治会館<br>高知県市町村総合事務組合<br>株式会社細木建築研究所<br>桜設計集団一級建築士事務所<br>縦建築事務所<br>株式会社竹中工務店                           | 池田洋光<br>細木 茂<br>佐藤孝浩<br>田尾玄秀<br>戸高恭明 |
| 3) 近畿大学 ACADEMIC THEATER<br>学校法人近畿大学<br>株式会社 NTT ファシリティーズ                                                   | 萩原理実 吉川正規<br>宮崎政信<br>長島英介 岸本直也       |
| 4) 水天宮御造替 ―境内まるごと免震―<br>宗教法人水天宮<br>株式会社竹中工務店                                                                | 有馬頼央<br>麻生直木 中根一臣<br>飯田智裕 水野吉樹       |
| 5) 蒲郡信用金庫本店<br>株式会社久米設計                                                                                     | 横田 順 鎭流馬久明<br>熊王皓一 湯澤優登              |
| 業績賞                                                                                                         |                                      |
| 1) 東京ガーデンテラス紀尾井町<br>株式会社日建設計                                                                                | 小坂橋裕一 木村征也<br>安藤顕祐 長嶋千草              |
| 2) 山梨文化会館免震レトロフィット<br>株式会社山梨文化会館<br>株式会社丹下都市建築設計<br>株式会社織本構造設計<br>株式会社建築設備設計研究所<br>三井住友建設株式会社               |                                      |
| 普及賞                                                                                                         |                                      |
| 1) トンネル工法と免震性能最大化設計による地上無補強<br>完全使いながら免震レトロフィット技術の開発と実現<br>株式会社日建設計<br>元株式会社日建設計<br>株式会社北海道日建設計<br>清水建設株式会社 | 長瀬 悟<br>山脇克彦<br>小谷卓司<br>安富彩子 齊藤 穰    |
| 20. 第 20 回< 2019 年 6 月>                                                                                     |                                      |
| 技術賞                                                                                                         |                                      |
| 1) 新たな引抜き対応工法「TOS システム」の開発<br>株式会社竹中工務店                                                                     | 麻生直木 中根一臣<br>小倉史崇<br>西野允雅            |
| オイレス工業株式会社                                                                                                  |                                      |
| 作品賞                                                                                                         |                                      |
| 1) NHK 仙台放送会館<br>日本放送協会<br>株式会社山下設計<br>株式会社大林組                                                              | 塩手博道 松澤祐介<br>高橋賢一                    |
| 2) YKK80 ビル                                                                                                 |                                      |

|                       |       |      |
|-----------------------|-------|------|
| YKK 不動産株式会社           | 吉田忠裕  |      |
| 株式会社日建設               | 原田公明  | 田原一徳 |
| 鹿島建設株式会社              | 高橋 亘  | 兒玉哲志 |
| 3) 中之島フェスティバルタワー・ウエスト |       |      |
| 株式会社朝日新聞社             | 穴道 学  |      |
| 株式会社竹中工務店             | 橘 明宏  |      |
| 株式会社日建設               | 吉田 聡  |      |
| 株式会社竹中工務店             | 佐分利和宏 | 桑原貴士 |

4) 新発田市新庁舎

|                     |           |
|---------------------|-----------|
| 新発田市長               | 二階堂馨      |
| aat+ ヨコミゾマコト建築設計事務所 | ヨコミゾマコト   |
| Arup                | 竹内篤史 徳淵正毅 |
| 大成建設株式会社            | 河田善裕      |

#### 業績賞

- 1) 小津本館ビル  
(1653 年以來の創業の地における免震改修)
- |          |           |
|----------|-----------|
| 株式会社小津商店 | 中田範三      |
| 鹿島建設株式会社 | 丸山茂生 工藤利昭 |
|          | 松本 航 松元秀憲 |
- 2) 関西大学第 4 学舎 1 号館学舎棟
- |                 |      |
|-----------------|------|
| 京都工芸繊維大学        | 満田衛資 |
| 株式会社満田衛資構造計画研究所 | 江畑和弘 |
| 株式会社佐藤総合計画      | 井下仁史 |
| 株式会社星田逸郎空間都市研究所 | 星田逸郎 |
| 学校法人関西大学        | 重田勝紀 |

## 日本免震構造協会賞（作品賞） 楯



### 楯の制作者故片山利弘先生（1928 年～ 2013 年）の作品制作意図とプロフィール

<作品制作の意図> 相対する概念、不安と安定を、特殊な技術的表現手段により美的な、均衡空間に創生させることを目的として制作したものです（片山先生）。

<片山先生プロフィール>

1966 年 ハーバード大学視覚芸術センターの招きで、アメリカ・ボストンに移住。

1990 年 ハーバード大学教授・視覚技術センター館長となる。

また、最近の作品には次のようなものがある。

大原美術館ホールの石壁と石のレリーフ彫刻。協力、和泉正敏氏（1991）

三井海上本社ビルの壁 3m 高の窓象、線映と石の彫刻。和泉正敏氏と共作（1994）

JT 本社ビルホール壁画などの銅板によるレリーフ（1995）

第 7 回日本建築美術工芸協会（AACA 賞、受賞）（1997）

## 日本免震構造協会賞（功労賞・技術賞・業績賞・普及賞） トロフィー



鳴海製陶株式会社製 クレスト トロフィー





## 一般社団法人 日本免震構造協会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA館 2階  
TEL 03-5775-5432 FAX 03-5775-5434